

尾崎まさやの市議会報告

2010年
summer

発行元 尾崎まさや後援会 〒640-8287 和歌山市築港3丁目33 TEL(073)436-2858 FAX(073)436-1398



平成21年度当初議会

魅力と価値詰まった漁師町

雑賀崎・田野

建築確認問題

このままでは限界集落に…

◆ 1 問 目 ◆

雑賀崎・田野地区は、風光明媚な和歌浦湾に望み、古くからの町並みをたたえた、伝統的なまちの有りようからも、非常に特徴のある優れた集落地域であると思われまます。これらの地域は、いずれも狭く、すり鉢状の地形の中で綿綿と立ち並ぶ家々は、なかなか市内では見つけることの出来ない風景で、近年、景観の観点からも注目されてきているところです。和歌山市の一次産業の担い手であるこの漁業集落は、都市計画法が施行されるずっと以前から、自然発生的に成立した村落であり、漁業振興・自給率向上の観点から非常に大切な地域であります。景観という観点からも非常に魅力のあるまちであることから、現在、和歌山大学の先生方や学生達も地域に入り、直接、地域の方々から聞き取り調査をし、研究発表もされてい

建築確認降りず、新築、建て替え困難

ます。地元のNPOの方々とも協働し、地域整備、まちづくりに取り組まれています。しかし、その特徴的な地形によつて家々の間の道路も非常に狭く、現行の建築基準法では建築確認がおりないところが多く、新築が困難な状況です。建築確認がおりないということからは、住宅ローンによる融資を受けられないということでありまして、老朽化した住宅の建替えを諦めたり、安全な住宅が建築されないということにもなりかねません。若い方が結婚し、この地に新たに住宅を建てることの困難を考えると、他の地区へ住居を移すことにもつながっています。後継者問題など様々な課題を抱えるこの地域にとつては大きな問題で、放置されれば廃屋が増え、いずれ限界集落化されていくことは火を見るよりも明らかです。

◎今後、大事な一次産業である漁業振興の観点からもこのような集落と現行法との問題について、どのような考えをお持ちか、お聞かせください。



山本牧まちづくり局長 雑賀崎・田野地区は、周知の通り非常に道が狭く、建築基準法に規定された敷地に接するべき道路が、大変少ないのが現状です。

通上、安全上、防火上及び衛生上支障がないとの確保ができないこととなり、確認を受けることができなかったものと思われ

ます。同法を遵守しつつ、集落を持続させるには、地元の皆様の意見を十分お聞きした上で、適切に進めるべき課題だと認識しています。

しかしながら、この地域は古くから和歌山市の漁業の拠点として発展してきました。その集落に居を構え、漁業を糧としている漁家の方々やその後継者

のことを考えますと、この集落の維持が漁業の持続と発展につながるものと思います。今後とも、適切な手法の研究を進めてまいります。



狭小な道を挟んで民家がひしめきあう

英知の結集で救え！ 現法の間にも苦しむ暮らし

◆ 2 問 目 ◆

建築基準法に規定されている基準の趣旨は理解できます。それを満たす道では無いのかもしれませんが、

その大部分は市道であり、これまでに和歌山市は貴重な税金を投入して漁業集落排水整備や漁港の整備に取り組まれています。不便な事は多分にあるが、この地で生まれこの地で

暮らし、将来にわたってこの営みを紡いでいきたいと、住まわれている方々は願われているのです。

大阪の法善寺横町が火災にみまわれ復興される際、以前の横町の風情を残したいと住民の方々が話し合っ

た計画を立てたそうですが、その前に立ち上がったのが建築基準法です。ここで詳しく触れませんが、現在、皆さんご存知のように以前の横町の風情を残したまま再建されております。お願いしたいことは、担当課の皆さんに知恵を出していただいて、これらの問題に向き合っただだきたいのです。

◎市長にお伺いいたします。法の間で、もがき苦しんでいる人たちがいれば、時には法の改正を改めて訴える必要もあるかと考えますが、何らかの救済策も含め、お考えいただけませんかお聞かせ下さい。

大橋建一市長 雑賀崎・田野地区は古くからの漁業集落で、観光資源としても重要なものだと考えております。

現在の建設基準法に適合した建築を行うことが極めて難しい場所です、たとえば地区計画の手法を使うとしてもセットバックして道幅を少しでも広げる必要があり、地権者や地区

の総意が前提となるなど大変難しい問題がございます。

この問題については、両地区の多

くの方々から何度も要望をいただいております。いっそ都市計画区域から外してほしいという切実な声も聞いております。現段階で前向きな答弁がでないのは甚だ辛いのですが、すぐに解決する方策が浮かばない現状であります。

当該の住民の皆様にとつては死活問題であることを十分承知しておりますので、こうした特殊な歴史的文化的価値のある地域における運用について同法の改正ができないかも含め、国に対して意見を述べたいと思っております。

私の提案をきっかけに田野地区では、市担当者や住民の代表らが1年近くにわたって協議を重ね、田野独自の許可基準案をまとめ、これが市建築審査会で了承されて今年4月から運用を開始しています。防火・衛生などの安全面を確保した上で、将来的に一定の幅員を確保するために建て替えや新築の際にはセツトバックを要するという内容です。当初、セツトバックについて反発もありましたが、住民の「子や孫が安心して暮らしていけるまちに」という願いと、市担当者の「遵法より暮らしが第一」という熱意が実を結んだ画期的な取り組みです。雑賀崎地区も協議が進められています。成功を祈るばかりです。



住民と市担当者が約1年にわたって協議を続けてきた

戦後のまちから！「平成の文教地区」へ

砂山・今福地区のまちづくり

1 問 目

砂山南地区は、明治以来、第二次大戦終結まで歩兵61連隊が練兵場として使用した歴史ある場所です。平

成16、17年度の議会では、この地区の持つ歴史的意義や様々な問題点（排水計画が未整備で水路や狭隘な道路が輻輳し事故が多発しているなど）国家公務員合同宿舎問題といっ

た事を例に挙げ、戦後間もなく整備されたこの地区を、各行政間の垣根を越えたまちづくりをしていくためには、市長が強いリーダーシップをお取り頂くことの必要性を訴え、「平

成の文教地区・砂山南文教の杜計画」として総合的にまちづくりをしていく必要性を提案した。

現在、各学校関係者代表の方々が集まり、砂山南地区教育福祉施設・保護者連絡協議会が立ち上がりまして、毎月の定例会で、地域の子ども

たちの教育や生活について、意見交換がなされており。また、プログラム「文教の杜」を立ち上げ、現在は、インターネットや携帯電話等が与える悪影響から子どもたちを守るための取り組みもされているとの事です。



今福・砂山地区の自治会、学校関係者で協議会を結成

④これら経過について、今日まで近畿財務局と和歌山市の間でどのような協議や合意がなされてきたのか、お聞かせ下さい。また、その後どうなったかをお聞かせ下さい。

山本まちづくり局長 近畿財務局と和歌山市が話し合いをし、協力して進めていくことの中に、南側道路の整備と北側水路の暗渠化、さらに県和商構内道路の公道化を進める協議会の立ち上げがありました。南側道路の整備及び北側水路の暗渠化については、諸般の事情により実現が困難となり現在に至っていますが、近畿財務局からは今後ともこの地域のより良い環境づくりのために道路改善や宿舍周辺の国有地の利用方法について協力していただける旨の回答をいただいておりますので、改めて協力をお願いしてまいります。

⑤大江教育長の持ち前の行動力とリーダーシップで、持ち越されていた協議会が県和商で開催されました。開催されるに至った経緯と、これまでの開催で、どのような意見がだされたのか、お聞かせ下さい。

大江嘉幸教育長 平成20年2月18

日に砂山連絡所で6教育施設のPTAを中心に関係者が集まり、交流に向けての意見交換会が開かれ、子どもの視点に立った連携を図るために連絡協議会の設立が必要であるのではないかと、この提案が出されました。この提案を受け、同年6月9日に県和商で、PTAの会長をはじめ9人の「文教の杜協議会」の方々、和歌山大学の先生、県教育委員会、市からは審議監と教育委員会から私を含め4人が出席し「砂山地区における幼児から高校生までの保育所・学校間の交流を一層深め、砂山地区内の子どもの健全育成をより図る」ことを目的として、県立、市立、私立の枠を超えた「砂山地区保育・教育連携協議会」を設立しました。



物語の生まれる「まちづくり」
物語の生まれる「まちづくり」



文教の杜計画を具体化した冊子を作成

8月4日の第2回会合では、紀南地方で行われた、隣接した高校と幼稚園の合同避難訓練を参考に、砂山南地区内での6教育施設合同の防災訓練について、高校生や中学生が、乳幼児や小学生に対して何が出来るか。またそのために日頃から6教育施設間でどのような交流を進める必要があるか。さらに防犯面においてもすぐに連絡がとれるようにするための緊急ネットワークづくりなど、通学する子どもの安全確保について話し合われました。西和中学校新校舎の多目的ホール利用方法の情報交換も行われました。

第3回会合は11月にむつみ保育園で、それぞれの連携について情報交換が行われ、和歌山ろう学校90周年記念行事の協力体制づくりができるなど、この協議会の結成によって、より交流が深まったという意見も聞かれました。

このように、子どもの健全育成の視点に立った砂山地区内の住環境や教育環境等についての活発な意見交換を行ってまいりました。

⑥この地区に於ける抜本的な排水計画の下水道の進捗状況や、今後の計画を教えてください。

千賀祥一建設局長 砂山、今福地区の浸水解消を図ることを目的とし

て、湊南第2雨水ポンプ場の建設に併せ、雨水幹線の埋設に努めているところです。

ポンプ場につきましては、平成22年1月に稼働できる見込みで、雨水幹線についてはポンプ場を起点とし、砂山南3丁目、市立砂山保育所前までを3カ年をかけ建設中で、平成21年7月に完成する予定です。さらに平成21年度から2カ年事業として、市立砂山保育所から西和中学校前まで南進させることとしています。これらの整備が完了すれば、支線整備も順次実施でき、既設の水路の取り込みが可能となり、浸水の解消が図られるものと考えています。

◆ 2 問 目 ◆

砂山南地区は、やはり「教育」「子ども」「防災」といったことがキーワードになっていくと思われま

す。子どもたちの交通事故などや不審者状況を調べると、砂山地区で数件起こっております。県和歌山商高構内通路においても、何件か接触事故があったとの事で、宿舍問題が直接の原因ではないと思いますが、環境が改善されないまま新たに自動車の流入が起こったことにより、それを遠因として、二次的にそういったことが誘発されているのではと危惧します。

市幹部らも現地視察に訪れました



④そういつたことも含め、連携協議会を今後どのように活かしていくかと考えていますか。お答え下さい。

大江教育長 当地区内の住環境、教育環境等について議論を重ねてまいりましたが、やはり子どもの安全確保の視点に立った連携を深めることが大切であると認識しております。

教育 子ども 防災 をキーワードに

大橋市長「庁内横断的プロジェクトを立ち上げる」

や、子どもたちを通して保護者や地域との関わりがより広まっていくものと確信しております。そして、この広がりやまちづくり局や建設局を中心としたプロジェクトと連携する中で、より一層の地域教育力の向上へとつながるものと考えております。



平成の大混乱の中にある今だからこそ、教育に資する目的として思い切って公募債を発行し、それを財源にまちづくりを進める。中核市の和歌山市では教育研修センターの設置が必要と考えますし、防災面でも、日本赤十字病院や看護学校のほか、国や県の出先機関が集積され、大規模な防災時には避難所として極めて大きな役割を果たすことになる場所であると思っております。

幸いにして先の大戦で戦災に遭うことがなかった今福地区は、道路が輻輳し迷路のようになっていてなかなか基盤整備が進んでおりません。それはそれで風情のある町並みですが、防災面や衛生面では難点があります。都市計画画は湊前線や今福都市公園が描かれていますが、一向に進んでおりません。排水場所にも困っており、雨水も側溝をたどり砂山川に流れ込んでいるので学校周辺同様、たびたび浸水に悩まされています。

建設局長のご答弁では、今年度から2カ年の事業として砂山保育所から西和中学校まで南進して、これらの整備が整えば支線整備が可能ということですので、下水道事業としてのみにとらわれることなく、重要な二次的整備の観点からも、合わせてお考え頂きたいと思っております。

⑤担当部局であるまちづくり局や建設局が中心となって教育委員会とも連動し、まちづくり交付金などの活用を本気でお考えになつていただき、点から線をつなぎ、面整備へつなげていく絶好のチャンスで、可能だと考えますが、市長、お考えをお聞かせください。

大橋市長 小中学校、保育園、県立高校等、各種の教育機関や福祉施設、また公共機関等が複合的に存在する特色ある地区であることは十分認識しています。都市計画で定める文教地区の指定は、その地区の特定にふさわしい土地利用の増進のため、用途地域を補完して定める指定で、そのため規制の強化ともなる面があります。従いまして、地域の方々の意向がまとまることが重要であります。

当地域のまちづくりについては、進行中の種々の整備計画を整理する必要もあることから、今後まちづく

り局、建設局を中心に庁内横断的なプロジェクトを立ち上げ、教育委員会をはじめ関係部局で議論を重ね、都市再生整備計画を含めた他の手法も考慮するなど地域の方々の意向や要望もお伺いしつつ、当地域の歴史を踏まえるとともに、文教地区としての特色を活かしたより良いまちづくりを推進してまいりたいと考えています。

国交省河川事務所前に歩兵第61連隊の石碑が残っています。碑文には「県唯一の歩兵部隊として国防に任じ、幾多の紀州健児がこの兵営を後に勇躍各地の戦場に赴き、その名を馳せたのである。今我等はあの悲惨な戦争を再び繰り返さないことを固く誓うと共にひたすら郷土の永遠の平和と繁栄を願つてここに史蹟として遺すものである」とあります。

この跡地がどのように活用されるか、今はわかりませんが、この時代を生きた者として、歴史的背景を踏まえ、この地を平和や教育、防災といったメッセージのある文教地区として定め、新たな時代を切り開いていく子どもたちのためにも、平成の文教地区・文教の杜として、まちづくりに取り組む必要性を強く感じています。

仮称「北インター臨港・紀の川バイパス」 実現を提言！

45年手つかずの湊神前線に光を



産業振興と道路行政

◆ 1 問 目 ◆

臨港地区は、工業地域として制限はあるが、制限の中でさまざまな事業も可能となり、中央市場前の臨港道路1号も、面道路の需要さえあれば大浦街道のような商業店舗が建ち並ぶことが可能で、その要素も十分ある。

一方、広域幹線道路や国道などを利用し、市外から流入してくる交通を処理する代表的な道路網は外環状と内環状があげられる。内環状は、新和歌浦中之島紀三井寺線と湊神前線で構成される都心部周辺の環状道路で、整備進捗率は90%に達し、掘止交差点から大浦街道に抜ける湊神前線の約1キロを残すのみ。しかし、この区間の重要性は認識されているが事業化に至らず、計画から45年が経過している。

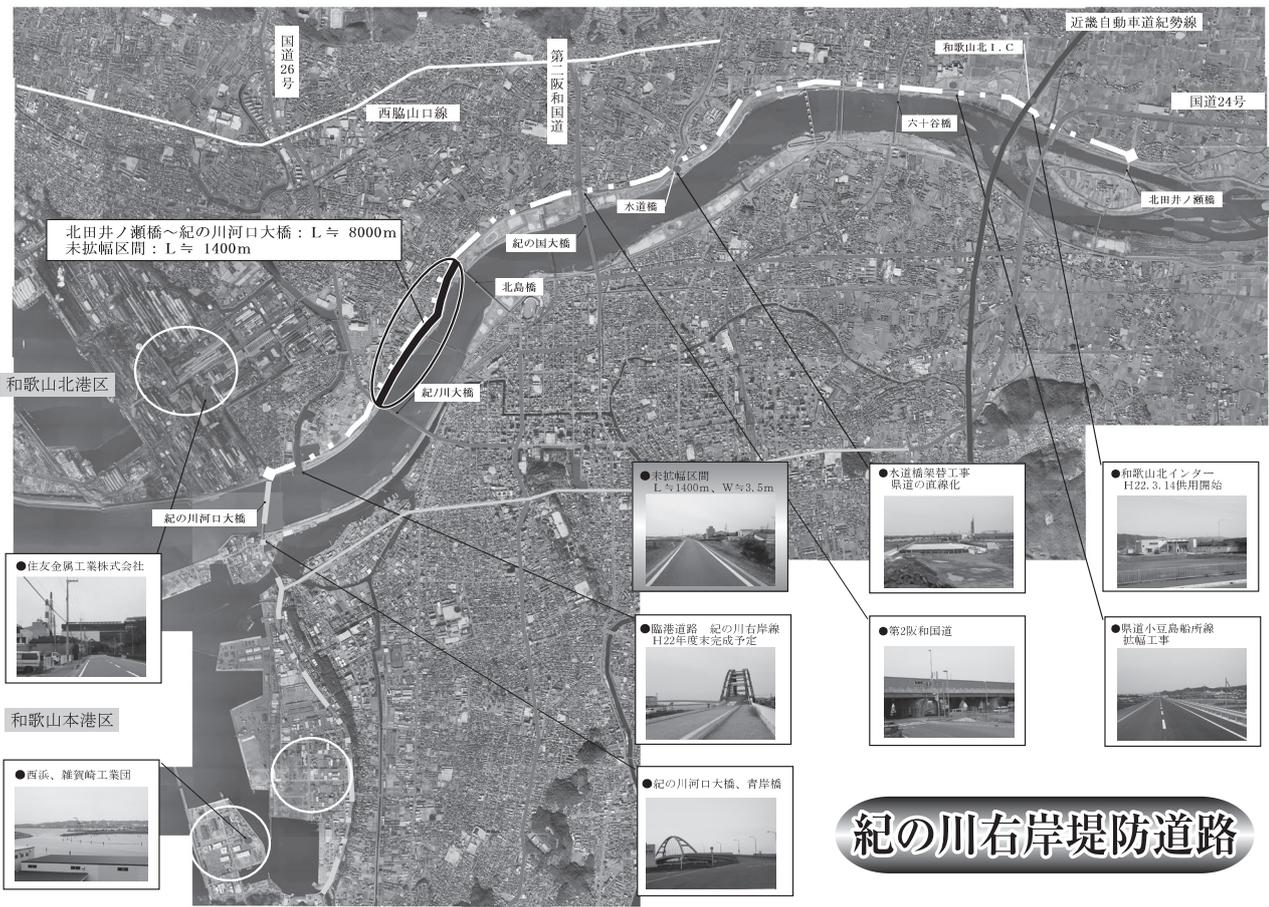
この地区は老朽化した木造住宅が密集し防災面での不安を抱えていることに加え、保育所や幼稚園も含めて実に18の教育施設6200人以上の子どもが通う地域であり、渋滞はもちろん通学にも危険な状態になっている。この地域に流入してくる交通を東西に貫く幹線道路によって処理することで今以上の安全を確保できると考える。残り1キロの事業化を選択と集中、費用対効果も含めて真剣に検討いただきたい。

④紀ノ川河口大橋の通行が8月1日から無料化され、大橋から紀ノ川大橋北詰の交差点部分までを臨港道路として整備し、土入川河口部にも道路の東西を結び新橋が架けられています。その工事の効果や狙いはなにか。臨港地区の重要性を認知するため、この地域の総生産高、総出荷額、雇用者数などほどの程度か？

山本まちづくり局長 臨海部を松江南部、湊、砂山及び雑賀西部とし、海と産業集積を活用した基幹産業振興ゾーンに掲げ、工業機能の集積整備、港湾機能と物流機能の整備などを目標にしている。紀ノ川右岸の臨港道路は、県が整備工事を進行中で完成すると、臨港地区と国道26号を結ぶアクセスが向上し、港の機能向上や製品出荷の円滑化など臨港地区のポテンシャルが物流面で高まり、市の産業・経済に大きな効果があると考えます。

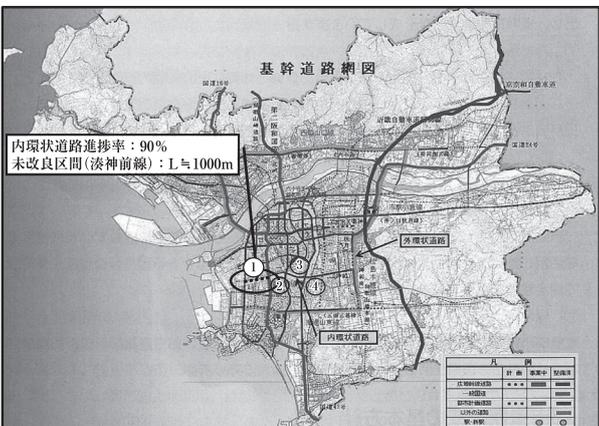
また平成19年度工業統計によると、県総出荷額は約3兆円、市の総出荷額は約1兆5711億円。このうち臨港地区は約1兆853億円で、市の総出荷額に占める割合は69%です。従業者数は6987人です。

④湊神前線計画の目的は？なぜ未着手のまま現在に至っているのか？残り1キの事業化についての考え方は？



紀の川右岸堤防道路

内環状道路の整備促進



湊神前線

- ① 未改良区間 L=1000m
- ② 2車線、片側歩道有
- ③ 4車線、両側歩道有
- ④ 4車線、両側歩道有

山本まちづくり局長 湊神 手が困難となってきた。平成16、17前線は臨海地域へのアクセス道路として計画されたが、神明神社から西側周辺は公園混雑地域が存在したため事業着

年(平成16、17)に地積調査が実施されています。事業化は、現在施工中の街路事業の終期を見据えて整備計画を立てていく予定。なお内環状の重要道路と位

◆ 2 問 目 ◆

北島橋から紀の川大橋までの市道部分1.4キロが整備されれば、北インターチェンジから臨港地区までの約8キロの幹線道路ができあがり、下津港から第二阪和、阪和高速に至る幹線道路とも言える道路が完成し、第二阪和や北インターを活用した、京阪神への物流輸送や企業進出も期待され活性化に確実に寄与。言わば「北インター臨港・紀の川バイパス」として機能します。

置づけており、早急に事業化できるよう努めたい。

外環・内環若干の見直しで機能向上

④「北インター臨港・紀の川バイパス」の完成を目指すことを提言したい、関係局長の所見を聞かせてほしい。

山本まちづくり局長 同バイパスができる、産業・経済面では、臨港地区と高速道路のアクセス時間が短縮され、西防波堤沖埋め立て地や西浜・雑賀崎の工業用地の優位性も高まり、基幹産業振興ゾーンとしての整備に大きく寄与し活性化につながると考える。道路政策面でも、臨港地区への交通流入量の軽減や、それに伴う生活環境の改善につながる

と考える。
千賀建設局長 西浜地区の臨港道路が南北幹線としてさらに機能し、市内西部の南北幹線道路の渋滞緩和、市中心部への南北通過交通の流入抑制などの効果に加え、沿線生活道路への迂回交通の流入が軽減されるという相乗効果もある。同バイパス完成は、単に港湾機能の充実という産業面だけでなく、生活環境面で非常に有益だと思っている。

◇ 外環状と内環状の両道路を長期総

合計画や都市計画図で見ると、大浦街道・和歌山工高から紀の川大橋までの間は、外環と内環がダブっている。それだけここに交通が集中するということです。本来、両道路は同心円的に形成されるのが普通で、市の場合はやや変則。しかし、臨港道路が26号線につながり、西脇山口線、松島本渡線、南港山東線へとつなぐと外環状も別にできあがる。大浦街道にその分を求めなくて済む。そういった意識を持って道路整備していく必要があると考える。

④外環状の見直しについて担当局長の所見を聞きたい。また内環状の湊神前線の残り1区間も道路幅員を変更するなど発想を変えて、若干の見直しをすることで早期事業化が図られるのではないか。

山本まちづくり局長 新ルートを外環状と位置づけることは、都市計画道路の見直しや、地域の道路政策を検討する中で考える必要があると思う。湊神前線の残区画は、県と協力して行っている都市計画道路の見

直しにあわせ、取り組んでいく。

④「北インター臨港・紀の川バイパス」の完成を県に働きかけていくことが重要と考えるが市長の所見は？湊神前線の早期事業化の必要性についても聞かせてほしい。

大橋市長 産業・経済面だけでなく生活環境面でも大きなメリットがあり、道路政策上、大変意義あるものと思う。指摘通り、港湾、工業地帯は道路というアクセスがなければいくら面積があっても機能せず、幅整備は国や県にとっても非常に有益。港湾整備事業の位置づけなど関係機関の協力が得られるよう強く働きかけた。また湊神前線については、地元も一体いつになったらという思いを持っていることは十分承知している。地積調査も終了し、今や事業化決定に障害はないが、街路事業は5路線が事業中です。残区間については、事業中の路線の進捗状況や完了時期を考慮しながら、今後の事業計画の中に位置づけてまいりたいことを現段階で答えるしかない状態。湊神前線の重要性は十分認識しており、今後の事業計画の中で市域全体の交通事情の変化を踏まえ、幅員の問題も含めて効果的な整備手法を考え、積極的に取り組んでいきたい。

尾崎 まさや プロフィール



- 1966年8月9日 和歌山市東長町に生まれ育つ
- 岡山幼稚園、砂山小学校、西和中学校を経て
- 1985年 近畿大学付属高等学校を卒業
- //
- 同年単身南米ブラジルへ渡伯
- 1990年 帰国
- 1997年 内装会社を設立
- 2004年 和歌山市市議員選挙で初当選

現在に至る

◇ 連絡先

〒640-8287 和歌山市築港3丁目33

TEL (073)436-2858 FAX(073)436-1398